ひろかだより

第398号
令和7年9月18日
発行
弘果
弘果 弘前中央青果株式会社
津軽の"うまい"がここにある

りんご部からのお願い
運搬時には
ロープがけを忘れずに
選果は上下差の無いよう
お願いします
CAUTION

早生種「つがる」「きおう」
着色遅れから入荷減も 相場堅調に推移

弘果、津軽りんご市場では8月中旬から、「つがる」「きおう」等、早生種の本格的な入荷が始まりました。

今年産早生種の状況として、朝晩の気温が高く推移し着色が進まない事や、干ばつの影響で玉伸びが非常に鈍く、中小玉、2番色が多い入荷となりました。販売面において「つがる」は、他県産りんごの着色不良から出荷が遅れ、青森県産への引き合いが強く、「きおう」は、中華圏の中秋節需要による輸出対応から全体的に堅調な取引となりました。

弘果の取扱い（9月16日までの累計）は「つがる」が数量22万6千箱（前年同日対比83・1％）平均単価5536円（同119・2％）、「きおう」が数量5万6千箱（同97・2％）平均単価4461円（同118・0％）、津軽りんご市場の取扱い（9月16日までの累計）は「つがる」が数量11万8千箱（前年同日対比87・7％）平均単価5308円（同121・3％）、「きおう」が数量2万3千箱（同100・9％）平均単価4485円（同117・1％）となりました。

これから「トキ」「早生ふじ系」が収穫期を迎えます。「トキ」については海外、特に台湾からの引き合いが強く、食味が良くないりんごが流通すると、青森県産りんごの評価を下げ、その後の価格面にも影響を及ぼします。

食味良く高品質なりんご生産に向けて「適期摘葉」「適期収穫」に努めましょう。

弘果早生種りんご競売の様子

津軽りんご市場早生種りんご競売の様子

栗こ南瓜収穫
柏木農業高校

弘果オリジナルブランドつがりあん「栗こ南瓜」の栽培実習を実施している柏木農業高校生物生産科1年生12名が8月29日、収穫作業を行いました。

当社農産指導課職員の指導を受け、5月26日の定植から約3か月間、高品質な南瓜を目指して栽培管理を行ってきました。

収穫を終えた同校の森山茉優（まゆ）さんは「定植から収穫まで、『商品』を栽培している意識を持ち、栽培管理に努めました。その結果、今日は収穫の基準をクリアした南瓜がたくさん収穫できたので、とてもうれしく思います。これから行われる、実習の集大成となる販売では、『商品』として出荷できる喜びと期待を胸に、多くの方々に『柏農（はくのう）産』の南瓜を買っていただき、おいしく食べてもらいたいです」と話していました。

この後は、風乾を経て、量販店の店頭で販売体験を行う予定です。

収穫した「栗こ南瓜」を手に
出荷・販売への期待が高まる生徒達

ハニーゴールデン収穫・出荷
五所川原農林高校

つがりあんメロン「ハニーゴールデン」の栽培実習を実施している五所川原農林高校生物生産科の1年生27人が8月21日、収穫、選果、箱詰め等、出荷に向けた作業を行いました。

この実習は、青森オリジナルメロン生産連絡協議会（渋谷充会長）のメロン栽培後継者育成事業の一環として同校で実施しており、当社農産指導課の指導のもと、5月27日の定植作業から約3ヶ月間の栽培管理を行ってきました。作業を終えた同校の工藤遙斗（はると）さんは「定植から収穫までの実習を経て、これから出荷して売り物となるメロンを生産する大変さを知り、体験することができました。改めてメロン農家である父をすごいと思い、これからは積極的に手伝っていきたいです」と実習を振り返りました。

全ての作業を経て出荷された113箱のメロンは8月22日、当社第1卸売場において競売が行われました。同校生徒達は、出荷したメロンの結果を見守り、DX箱8㌔入りの競売では、1箱あたり4千円の値が付きました。同校の木村健太郎さんは「出荷したメロンに次々と値段がついていく様子を見届けて、栽培してきたメロンが評価されたことをうれしく思います。これから店頭に並ぶので、買っていただいた皆様に美味しく食べてもらいたいです」と感慨深く話していました。

収穫した「ハニーゴールデン」を手に出荷・販売への期待が高まる生徒達

目揃え会で基準確認

当社オリジナルブランド「つがりあん」シャインマスカットは、高品質を付加価値としてブランド力を高め、価格向上に繋げることを目的に、出荷基準等を設けてクリアしたものを商品化しています。

出荷時期を目前に控え、当社第1卸売場と木造菰槌集荷場において9月2日、目揃え会が行われました。

両会場合わせて約210名の参加者が、出荷する際の粒や房の大きさ、形状、糖度、色の目安などの基準を確認しました。

参加者は「今年産は出荷規格の一部に変更があり、それを確認しました。より高い等級での出荷を目指し、収穫まで栽培管理に努めます」と話していました。

サンプルで出荷基準を確認する参加者

更なる生産・販路拡大へ取り組む

当社オリジナルブランド「つがりあん」いちじくは、省力で高収益が見込める点に着目し、一大産地化とブランド化を目指して「ドーフィン」「ビオレソリエス」の2品種を展開しています。

現在、出荷のピークを迎え、「つがりあん」いちじくは青森県内外の量販店で販売されています。中でも、新幹線を利用して、出荷からの時間を短縮し、首都圏量販店で販売する取り組みも行われています。

当社販売担当者は「ブランド展開を始めてから、生産、販売面において、各種取り組みの成果から、少しずつ『つがりあん』いちじくが浸透してきている実感はあります。今後も拡大に向けて取り組んでいきます」と話していました。

量販店店頭に並ぶ
「つがりあん」
いちじく

摘葉剤をご使用の方へ
殺ダニ成分を含むものがあるため、
必ず 収穫カードの裏に記入して
荷受係へ渡してください。

りんご高密植栽培モデル園

定植3年目の収穫始まる

弘果総合研究開発は9月5日、りんご高密植栽培経営モデル園で「つがる」の収穫を開始しました。定植から3年目を迎えた250本の樹から、初生りであった昨年の2倍に当たる10アールあたり1.2トンを収穫し、着色、食味共に良好な結果となりました。

同社では2019年から、津軽地方の9園地でりんご高密植栽培の実証実験を行ってきました。そして、これまでの試験園地での成果を踏まえ、この栽培の優位性を実証し、且つ新規就農者を育成する経営モデル園を、弘前市小沢地区に開設しました。同園地では研修生を毎年2名ずつ受け入れ、1人50アールの研修園地が割り当てられ、2年間の研修終了後、研修園地をそのまま継承して独立してもらうということにも取り組んでおり、現在は1～2期生4名が研修に励んでいます。

高密植栽培の成果に期待し収穫に励む

弘果総研はこれらの取り組みについて「作業の効率化や省力化、早期多収が期待されるりんご高密植栽培を普及させ、りんご収穫量の減少に歯止めをかけたい」と話していました。

同園地ではこれから、定植2～3年目の樹から、シナノスイート、シナノゴールド、サンふじを主体に収穫を予定しており、その結果に期待が高まっています。

第3期農業研修生募集

弘果総合研究開発が運営するりんご高密植栽培経営モデル園では、令和6年より新規就農者を育成する事業を行っています。研修生は同社社員として2年間、りんご高密植栽培全般の他、シャインマスカット等他品目についても学んでいきます。1人50アールの研修園地が割り当てられ、研修終了後はその園地を有償提供という形で独立を目指します。研修では栽培は勿論、選果や販売、農業簿記など経営についてもサポートしていきます。

この事業では、4期8名の研修生受け入れを予定しており、現在は第3期生となる令和8年度採用農業研修生（定員2名）を募集しております。応募の詳細につきましては、弘果総合研究開発業務部（電話：0172－29－4184）までお問い合わせください。

研修に励む1～2期生4名

Hiroka R&D Inc.
弘果総合研究開発(株)
弘果総研

農業の未来を拓く！新規就農者

農業に大きな夢と希望を抱いて就農した人にスポットを当て、紹介します。農業の未来を切り拓く就農者を弘果グループは応援します。

葛西 俊輔（しゅんすけ）さん（49）

【園地所在地】平川市石郷
【作付状況】里芋・20アール、米2ヘクタール
【就農年】2025年
【きっかけ】長年サラリーマンとして勤め、様々な職種を経験しました。いずれは会社勤め家には僅かながら田があり、これを活用して何か行えないかを考えるに至り、弘果職員の知人に相談したところ、農産指導課を紹介してもらい、作付品目の選定を始めました。魅力的な品目が多々ある中、営農に関する現状を鑑みた上で、弘果で現在栽培者を拡大している「里芋」を作付けし、農家として本格的に歩みだしました。

【現在】里芋を作付してから改めて感じたことは、弘果の懇切丁寧な栽培指導、関係する農機具の貸し出し等、出荷・販売面でのサポートが非常に心強く、今後の本格的な出荷に向け、安心して栽培管理に努めています。また、農業は栽培技術のみならず、建設、機械、薬品等、様々な知識と技術が必要と実感し、自身の農業経営の幅を広げていくために、これまでの仕事で培った経験の他、勉強に精を出し日々励んでいます。

【夢・展望】安定した基盤確立に向けて、更なる生産規模の拡大、作付品目の選定に余念がありません。まだ実績がないので、あまり大きいことは言えませんが、しっかりとした実績をつくり、自信をもって「農業で飯を食べています」と言えることが当面の目標です。

【座右の銘】「常に汝（なんじ）の最善を尽くせ」私の母校である弘前工業高校の校訓の一つです。人にはそれぞれ適性と能力があり、どのような場面でも、持っている力を十分に発揮することで、進歩向上への道が開かれると教えられました。私もこの教えを胸に、仕事やあらゆる場面において、自分の最善を尽くしていきたいと思っています。

つがりあんメロン

第13回品評会開催

青森オリジナルメロン生産連絡協議会青年部（吉田匡克部長）主催のつがりあんメロン第13回品評会が7月11日にアムさんの部、8月1日にアーバンデリシャスの部、8月22日にハニーゴールデンの部が開催されました。

アムさんの部には19点、アーバンデリシャスの部には25点、ハニーゴールデンの部には16点が出品され、それぞれ審査員4名が厳正に審査を行い、上位入賞者が決定しました。

厳正に行われた審査

【アムさんの部】
金賞　伝法谷章史（だるま生産組合）
銀賞　伝法谷雅孝（丸駒生産組合）
銅賞　木村　渉（駒田生産組合）

【アーバンデリシャスの部】
金賞　葛西義直（丸新出荷組合）
銀賞　浜山浩文（雉子森出荷組合）
銅賞　工藤健二（駒田生産組合）

【ハニーゴールデンの部】
金賞　増田和久（十面沢メロン組合）
銀賞　新岡正基（出来島地区）
銅賞　千田恭司（マル菰生産出荷組合）

弘果コスモ保険サービス株式会社解散 株式会社弘果物流へ保険事業継承

この度、株式会社弘果物流は、令和7年9月1日付で【株式会社弘果物流保険サービス課】として、子会社である弘果コスモ保険サービス株式会社より保険代理店事業を継承する事となりました。これに伴いまして、弘果コスモ保険サービス株式会社は、令和7年8月31日付で解散いたしました。

保険代理店の事務所、電話、FAX番号は、旧弘果コスモ保険サービス株式会社からの変更はございません。これまで同様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

㈱弘果物流

トレサビセンターよりお知らせ

【お問合せ】☎0172（29）4184

りんごトレーサビリティー受付中！
【場所】弘果及び津軽市場トレサビセンター
【時間】8時～17時
事前にご記入の上、書類を一式持参して下さい。

トレサビセンター混雑状況配信します!!

配信期間8月18日～9月30日まで
弘果・津軽市場両トレサビセンターの混雑状況を弘果総合研究開発㈱のHPで公開します。
トレサビセンターへ来場する際にご活用下さい。
混雑状況緩和の為、WEB登録もご活用下さい。

WEB登録はこちら　混雑状況の配信はこちら

出荷時には、品種カード・収穫カードを必ず荷受係へ提出下さるようお願いします。

りんご集荷場営業時間のお知らせ

津軽市場

【期間】11月27日まで
【休み】休市日の前日

【時間】午前9時～午後6時
- 五所川原集荷場 080-6051-5242

【時間】午前10時～午後6時
- 鶴田集荷場 080-5744-5050
- 鯵ケ沢集荷場 080-5744-5048
- つがる市柏集荷場 080-5360-8056 桑野木田 ※旧オレンジハート隣

弘果

【期間】11月30日まで
【時間】午前10時～午後6時
【休み】休市日の前日

- 小沢集荷場 090-7529-3736
- 目屋集荷場 070-2022-1905
- 岩木集荷場 090-1398-1415
- 浪岡集荷場 080-1833-1461
- 鬼沢集荷場 090-2988-2855
- 大鰐集荷場 080-3149-3657
- 十面沢集荷場 080-4411-8759
- 平賀集荷場 080-5224-7684

10/13 OPEN
- 秋田県北集荷場 080-5849-9648 秋田県鹿角市十和田錦木山谷1-8
  【期間】10/13(月)～11/24(月)
  【時間】午後1時～午後6時